

平成 29 年度（社福）清水福祉会本部事業報告

I. 評議員会・理事会 開催状況

- | (開催日) | (会議名) | (議 事 内 容) |
|------------|--------|--|
| ○H29. 6/22 | 定時評議員会 | <ul style="list-style-type: none">① (社福)清水福祉会平成 28 年度事業報告 (案) について② (社福)清水福祉会平成 28 年度会計決算報告 (案) について③ (社福)清水福祉会給与規程改正について④ 地域密着型サービス事業用地の変更報告及び土地の取得並びに複合施設建設工事設計管理委託業務請負契約の締結について⑤ 役員を選任及び役員等報酬基準 (案) について⑥ (社福)清水福祉会経理規程の改正について その他
社会福祉充実計画について |
| ○H29. 6/22 | 理事会 | <ul style="list-style-type: none">① 理事長の選任について② (社福)清水福祉会平成 28 年度事業報告 (案) について③ (社福)清水福祉会平成 28 年度会計決算報告 (案) について④ (社福)清水福祉会給与規程改正について⑤ 地域密着型サービス事業用地の変更報告及び土地の取得並びに複合施設建設工事設計管理委託業務請負契約の締結について⑥ 役員等報酬基準について⑦ (社福)清水福祉会経理規程の改正について その他 |
| ○H29. 8/31 | 理事会 | <ul style="list-style-type: none">① (社福)清水福祉会評議員解任 (案) 候補者の推薦 (案) 及び (社福) 清水福祉会評議員選任・解任委員会の招集について② 評議員会の招集について③ (社福)清水福祉会いわまつ保育園職員募集要項 (案) 及び給与規程 (案) について④ 各拠点の業務状況報告について⑤ 地域密着型サービス事業の入札及び事業補正予算 (案)、独立行政法人福祉医療機構より借入について その他 |

地域密着型サービス施設敷地の整地工事等請負契約の締結報告について

○H29. 9/8 評議員会

- ① (社福)清水福祉会いわまつ保育園職員募集要項及び給与規程(案)について
- ② 地域密着型サービス事業の入札及び事業補正予算(案)について

その他

地域密着型サービス施設敷地の護岸工事等請負契約の締結報告について

○H29. 10/2 理事会・評議員会

- ① 地域密着型サービス施設整備等歳入歳出10月補正予算(案)について
- ② 地域密着型サービス施設新規工事(建築)請負契約の締結について
- ③ 養護老人ホームけいこう園 施設長選任について

その他

○H30. 1/17 理事会

- ① (社福)清水福祉会いわまつ保育園(仮称)設置認可申請について
- ② 平成29年度社会福祉法人指導監査の結果及び改善状況について
- ③ 地域密着型サービス施設整備等歳入歳出補正予算(案)について
- ③ 評議員会の招集について

その他

○H30. 1/25 評議員会

- ① (社福)清水福祉会いわまつ保育園(仮称)設置認可申請について
- ② 平成29年度社会福祉法人指導監査の結果及び改善状況について
- ③ 地域密着型サービス施設整備等歳入歳出補正予算(案)について

その他

○H30. 3/5 理事会

- ① (社福)清水福祉会定款変更について
- ② (社福)清水福祉会いわまつ保育園平成30年度・31年度事業計画(案)及び収支計算書(案)について
- ③ 評議員会の招集について

その他

○H30. 3/13 評議員会

- ① (社福)清水福祉会定款変更について
- ② (社福)清水福祉会いわまつ保育園平成30年度・31年度事業計画(案)及び収支計算書(案)について

その他

○H30. 3/22 理事会

- ① 平成29年度(社福)清水福祉会各拠点補正予算(案)について
- ② 平成30年度(社福)清水福祉会各拠点事業計画(案)及び予算書(案)に

ついて

- ③ いわまつ保育園就業規則・給与規程の変更について
- ④ いわまつ保育園の建物無償譲渡契約及び土地の無償借受契約について
- ⑤ 評議員会の招集について

その他

○H30. 3/30 評議員会

- ① 平成 29 年度（社福）清水福祉会各拠点補正予算（案）について
- ② 平成 30 年度（社福）清水福祉会各拠点事業計画（案）及び予算書（案）について
- ③ いわまつ保育園就業規則・給与規程の変更について
- ④ いわまつ保育園の建物無償譲渡契約及び土地の無償借受契約について

その他

Ⅱ. 監事関係

○H29.5/22 (社福)清水福祉会事業及び会計監査

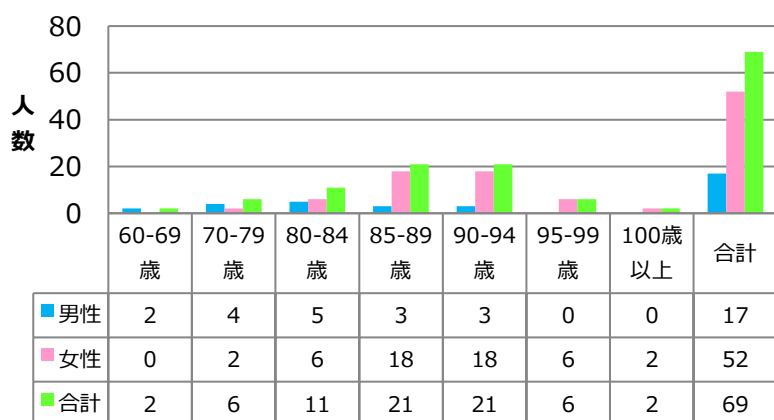
Ⅲ. 研修関係

○H30.2/6 平成 29 年度佐賀県社会福祉法人役員研修会等

Ⅳ. その他

I 清水園利用者状況

1 <年齢別構成表>



平成29年度末時点での年齢状況は、85～94歳が30.4%と最も多くなっている。また、100歳以上が2名で、最高齢者は102歳であった。

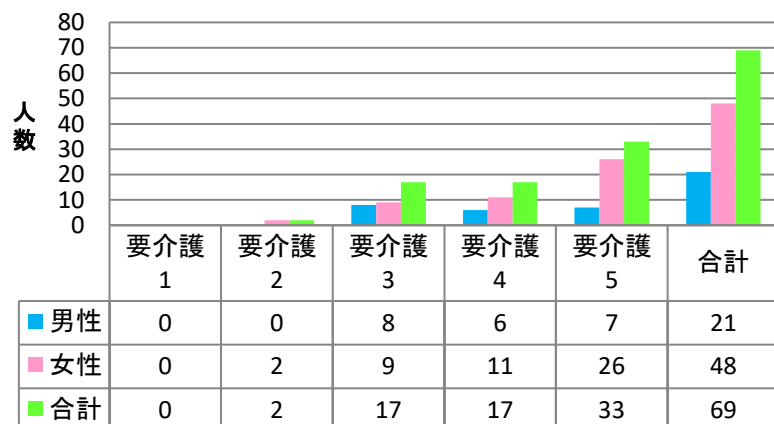
【過去5年間男女別平均年齢】

	H24	H25	H26	H27	H28
男性	81.0	83.2	82.6	79.5	81.1
女性	88.9	88.8	88.0	88.6	89.1
平均	88.1	87.4	87.3	86.3	86.7

【平成29年度末】

男性利用者最高齢 93歳
 女性利用者最高齢 102歳
 男性平均年齢 80.6歳
 女性平均年齢 89.3歳
 男女平均年齢 87.2歳

2 <介護度別構成表>



平成29年度末時点での入居者の平均要介護度は4.2であり、昨年度と比較すると、男女ともに介護度が高くなっている。

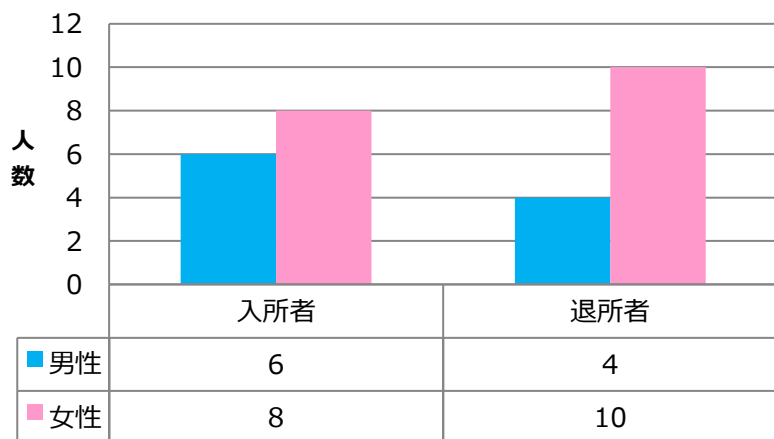
【過去5年間平均介護度】

	H24	H25	H26	H27	H28
男性	4.2	4.4	4.1	3.8	3.8
女性	4.3	4.3	4.0	4.2	4.2
平均	4.3	4.3	4.0	4.1	4.1

【平成29年度末】

男性平均介護度 4.0
 女性平均介護度 4.3
 男女平均介護度 4.2

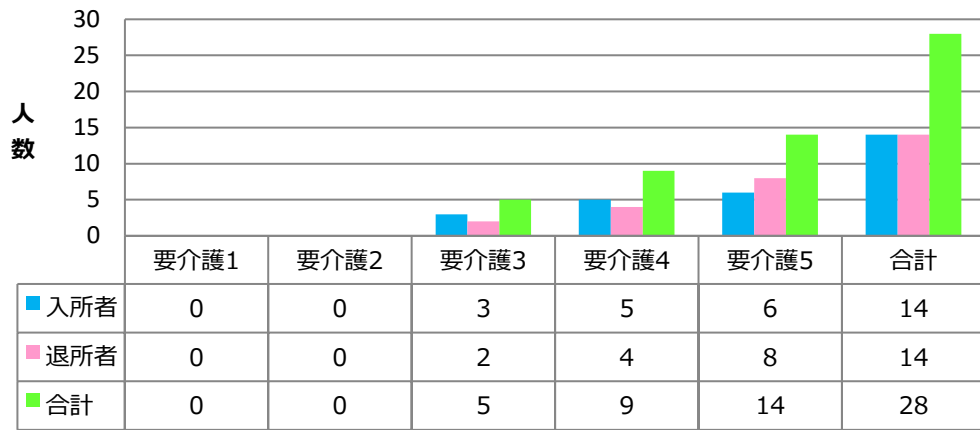
3 <入所者・退所者数>



【H29年度月別入退所者数】

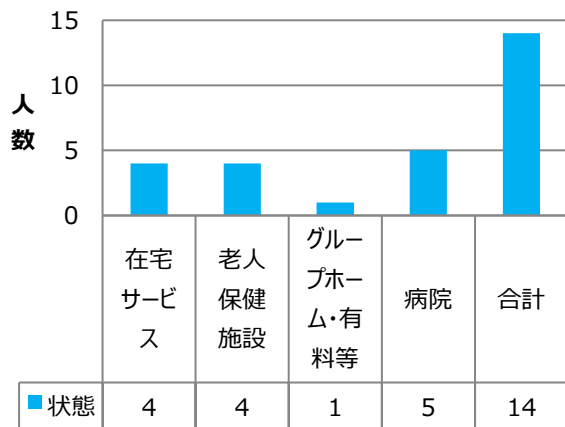
	入居者数	退所者数
4月	2	1
5月	1	2
6月	1	0
7月	0	0
8月	1	2
9月	1	2
10月	1	0
11月	1	1
12月	1	1
1月	2	1
2月	1	2
3月	2	2
計	14	14

4 <入所者・退所者の要介護度>

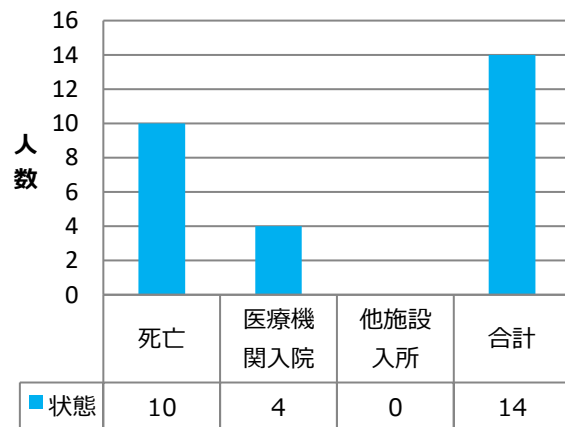


入退所者はそれぞれ14名であった。入所前の状態では、在宅・施設・病院が主であり、いずれも平均的に入所対応を行っている。退所者に関しては70%がお亡くなりになられての退所となっている。

5 <入所前の状態>

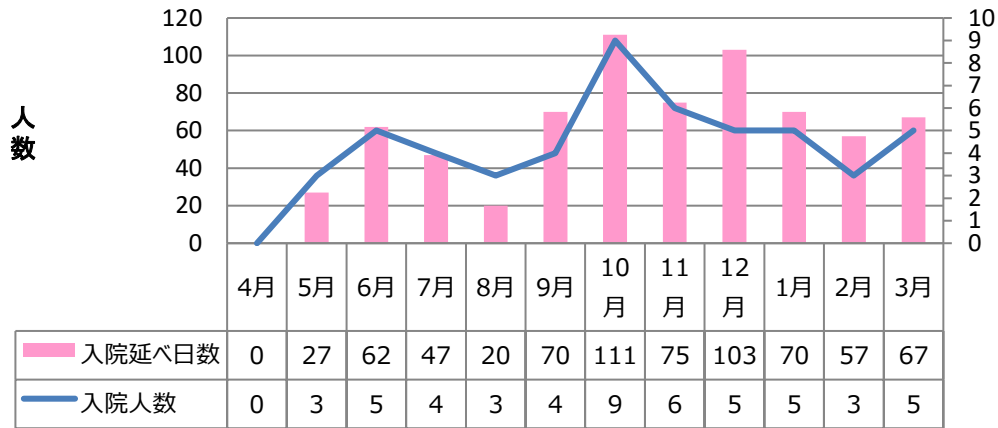


6 <退所の理由>



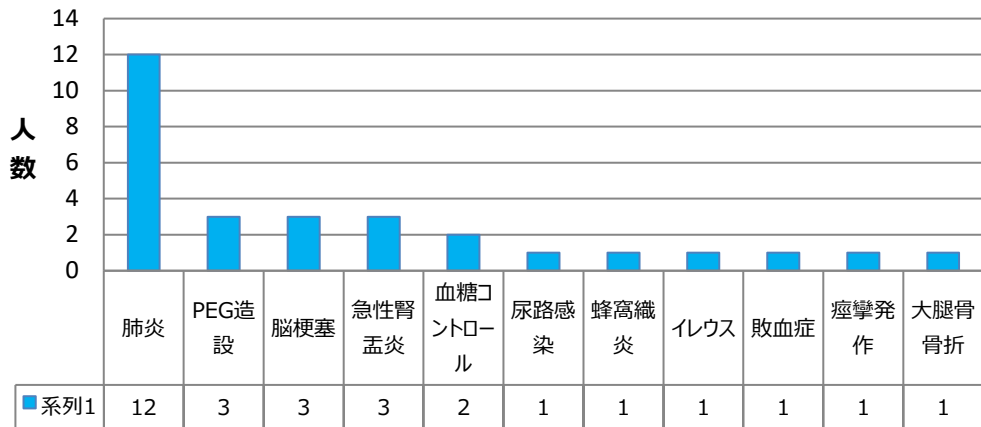
平成27年度より補足給付の基準が厳しくなっているが、料金を理由に他施設に移動される方はおられなくなっている。

7 <入院状況>



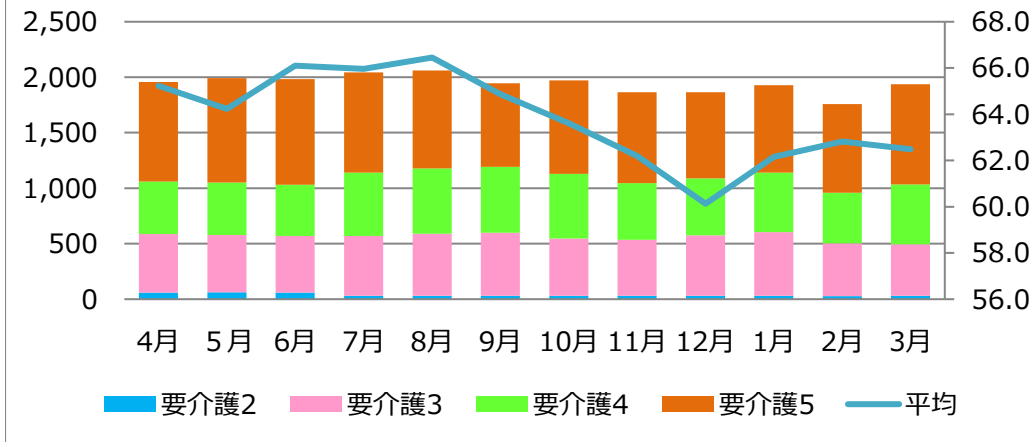
9月以降の入院者数が多く、一般的に長期化する傾向にあったため、利用実績に直接影響してい

8 <入院の原因・延べ回数>



嚥下機能低下のご利用者が多く、誤嚥性肺炎が原因による入院が40%を占めている。

9 <利用延べ日数・月平均>



H29年度	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	合計	平均
4月	60	527	474	896	1,957	65.2
5月	62	517	472	940	1,991	64.2
6月	60	510	462	951	1,983	66.1
7月	31	558	590	881	2,060	66.5
8月	31	558	590	881	2,060	66.5
9月	30	570	593	753	1,946	64.9
10月	31	517	581	843	1,972	63.6
11月	30	505	511	820	1,866	62.2
12月	31	544	513	776	1,864	60.1
1月	31	573	538	785	1,927	62.2
2月	28	476	455	800	1,759	62.8
3月	31	465	537	904	1,937	62.5
合計	456	6,320	6,316	10,230	23,322	63.9

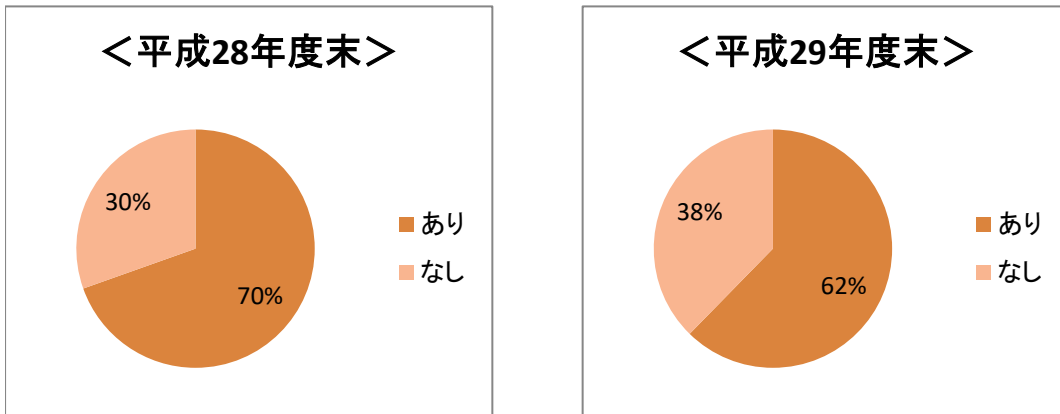
H28年度	合計
4月	1,979
5月	2,011
6月	1,934
7月	2,032
8月	2,006
9月	1,947
10月	2,055
11月	1,932
12月	2,019
1月	1,976
2月	1,813
3月	1,982
合計	23,686

平成29年度の稼働率は約92.6%である。昨年度は94.1%であり、比較すると稼働率はダウンしている。9月以降の入院者数の増加及び長期化が稼働率低下の要因となっており、年間延べ370名程減少している。

Ⅱ 平成29度の取り組み事項

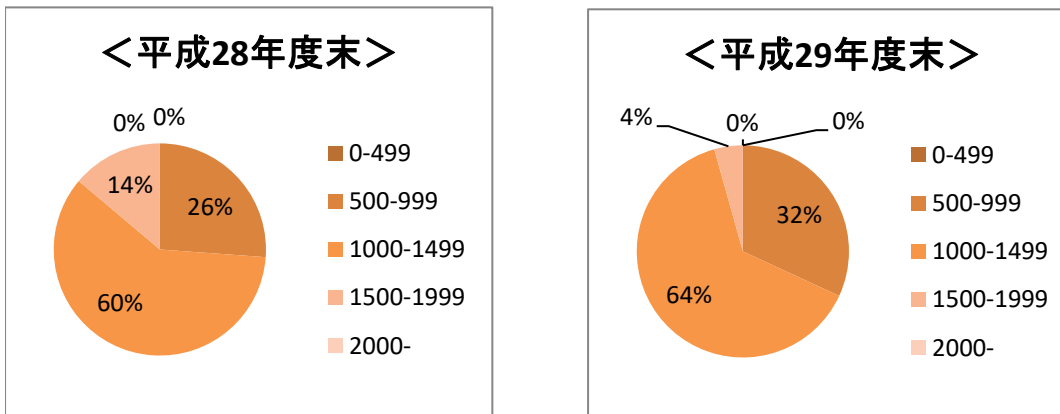
【介護力向上について】

1. 下剤：下剤を中止し、自然排便を促す（下剤の使用状況）



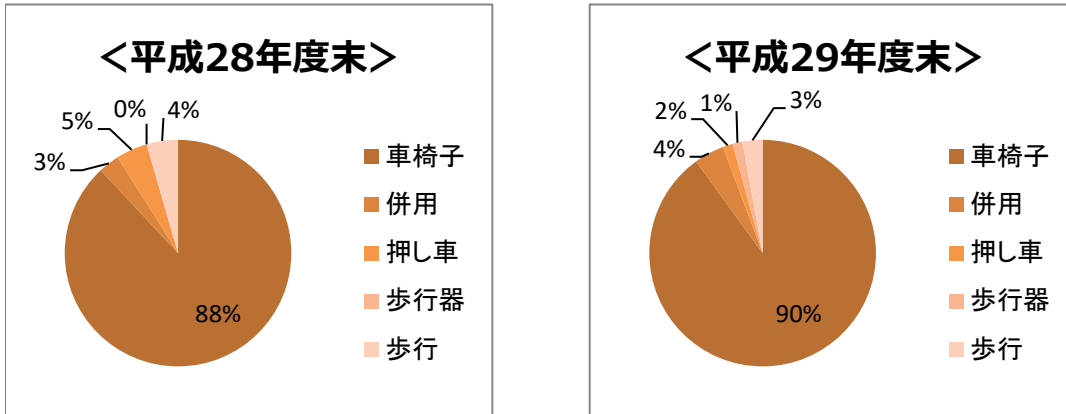
・平成29年度も、主治医と連携を図ることで水分管理を実施している。個々の活動状況等により目標水分量を設定し、できるだけ摂取できるように工夫している。しかし、嚥下機能低下のご利用者が多く、目標水分量に達することが難しく、下剤服用を中止するには至っていないのが現状である。昨年度よりは

2. 水分：水分ケア（一日の水分量）



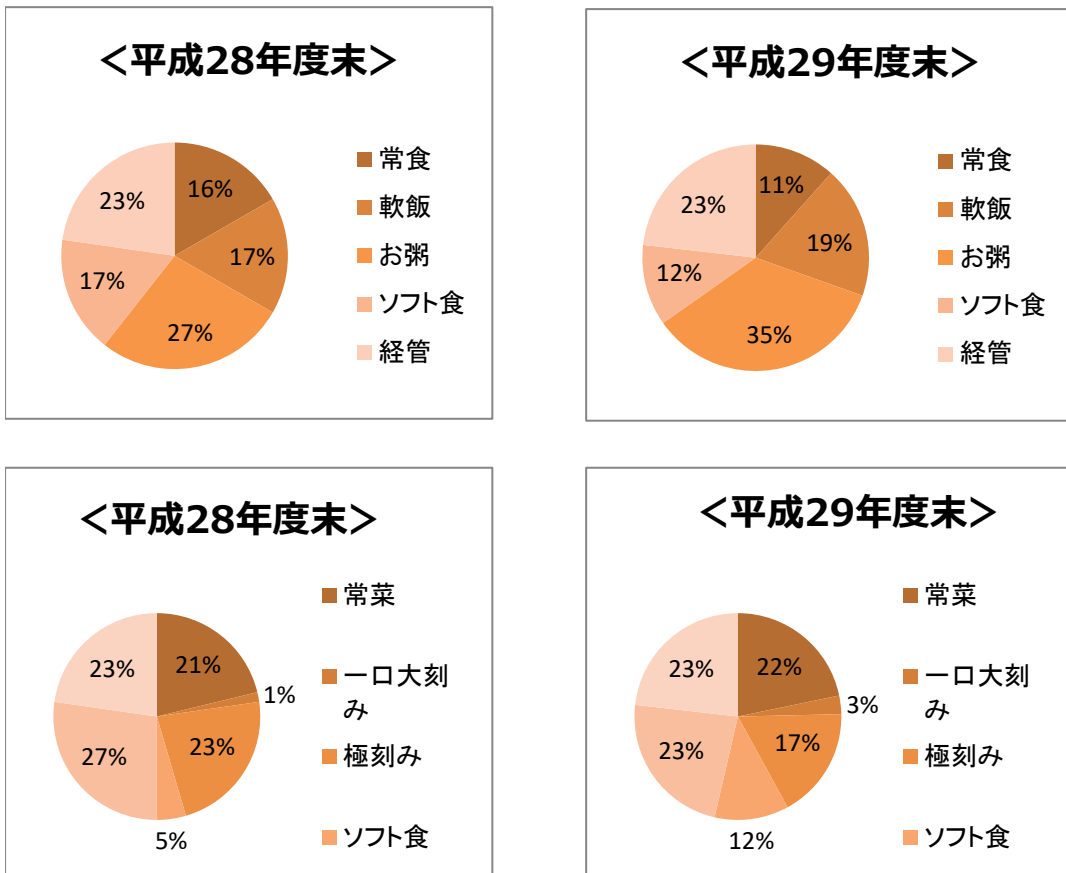
・個人差はあるが、1日1000～1500mlを目標としている。約7割の方が1000ml以上の水分を摂取することが出来ている。下剤を中止し、自然排便を促すためにも、目標水分量へ近づけることができるように重ねて検討を行っている。

3.歩行：歩行運動の実施（移動方法）



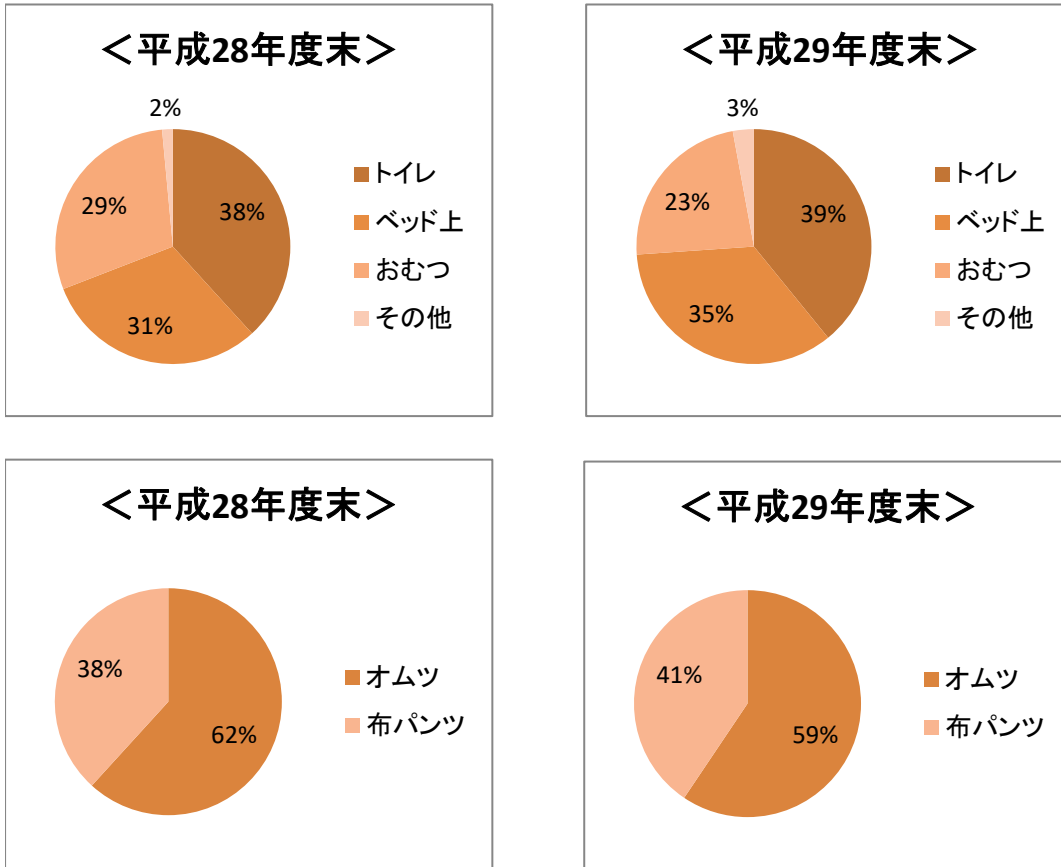
移動手段としては、9割が車椅子使用となっている。入居者の重度化が進み、歩行可能なご利用者の入居がないため、車椅子で移動される利用者が増えているのが現状である。

4.食事：常食への移行（食事形態）



ご利用者ごとの栄養状況及び嚥下機能により、食事形態の見直しを検討している。嚥下機能低下により、経管栄養となられるご利用者もおられるが、できるだけ現状維持を目標としている。歯科医師との連携を図り、義歯調整及び正しい口腔ケアの実践も引き続き継続しつつ食事形態の維持・改善を継続している。

5.排便：日中オムツゼロへの取り組み（排泄場所・排泄用具）



・昨年同様、4割程度のご利用者がトイレで排泄することができている。個室トイレを活用し、できる限りトイレで排便できることで、自然排便が実現できるよう心掛けている。しかし、トイレに座位を保てないご利用者が多く、数字的には割合が減少しているのが現状である。

Ⅲ まとめ

- ・経管栄養のご利用者が増加し、誤嚥性肺炎による入院が増加している。看護体制が手薄な時期が重なったため、看護師の採用を重点的に行っている。
- ・ノロウイルス発症に伴い、感染症対策について見直しを行っている。また、感染拡大防止のためのリスク対策及び感染対策費の充実など、早期対応に努めている。
- ・状態不良により入退院を繰り返す方が多く、長期入院による退所者が少なくない。空床日から2週間以内の入所対応に努め実現できている。
- ・今年度は施設内研修の充実を目標とし、スキルアップを図っている。ほぼ年間計画通りの研修会の実施ができている。

IV 平成29年度行事報告

月	主な行事	その他
4月	花見(園庭) 小城公園ドライブ 花まつり(甘茶)	
5月	川上ドライブ	移動美容室 車椅子清掃ボランティア
6月	大和しょうぶ園見学	避難訓練 移動美容室
7月	七夕会 小城山挽祇園前夜祭	多久高校実習生(3名)
8月	お盆法要 前川清歌謡ショー	移動美容室 緑生館実習生(4名)
9月	小城市長敬老訪問 たばこ組合訪問 敬老祝賀会	移動美容室 西九州短大実習生(1名)
10月	演劇鑑賞(佐賀市文化会館)	介護労働安定センター実習生(2名)
11月	ゆめぷらっと作品展提出(入居3名) インフルエンザ予防接種(入居者全員)	移動美容室
12月	カトリック幼稚園訪問 クリスマス・忘年会	避難訓練 移動美容室
1月	新年行事(お屠蘇・お年玉) 初詣	全体朝礼
2月	牛尾梅林見学	
3月	牛尾梅林見学	移動美容室

V 平成29年度研修・会議報告

月	内部研修報告	外部研修報告	会議報告	その他
4月	口腔ケア研修		ユニット会議 ユニットリーダー会議 代表者会議	各委員会メンバー決定
5月	高齢者との薬の関係	ユニットリーダー研修	ユニット会議 ユニットリーダー会議 代表者会議	事故予防委員会 身体拘束委員会
6月	食中毒について		ユニット会議 ユニットリーダー会議 代表者会議	
7月	嚥下困難対策・脱水症	九州老人福祉施設研究大会	ユニット会議 ユニットリーダー会議 代表者会議	感染症委員会
8月	認知症について	喀痰吸引研修会	ユニット会議 ユニットリーダー会議 代表者会議	事故予防委員会 身体拘束委員会
9月	高齢者虐待研修	支援専門員専門課程研修	ユニット会議 ユニットリーダー会議 代表者会議	
10月	褥瘡について	ユニットリーダー研修	ユニット会議 ユニットリーダー会議 代表者会議	感染症委員会
11月	インフルエンザ・ノロウイルス	全国老人福祉大会	ユニット会議 ユニットリーダー会議 代表者会議	事故予防委員会 身体拘束委員会
12月	接遇研修	在宅医療ネットワーク	ユニット会議 ユニットリーダー会議 代表者会議	
1月	感染症発症により中止	喀痰吸引研修会	ユニット会議 ユニットリーダー会議 代表者会議	感染症委員会
2月	個人情報保護	老人福祉施設長大会	ユニット会議 ユニットリーダー会議 代表者会議	
3月	介護コーチング	危機管理研修 介護報酬セミナー	ユニット会議 ユニットリーダー会議 代表者会議	委員会活動状況報告

平成29年度清水園拠点職員配置状況

特別養護老人ホーム清水園

()は兼務

施設長	副園長	事務職員	生活相談員	支援専門員
1	1	3	2(2)	(3)
看護職員	介護職員	その他	障害者雇用	合計
5	34(1)	5	2	53名

清水園短期入所生活介護

生活相談員	看護師	介護職員	合計
1	1	7	9名

清水園デイサービスセンター

生活相談員	看護師	介護職員	運転手	合計
(3)	3	8(3)	3	14名

小城市北部包括支援センター

社会福祉士	保健師	主任支援専門員	支援専門員	合計
1	1	1	4	7名

清水園拠点職員合計	83名
-----------	-----

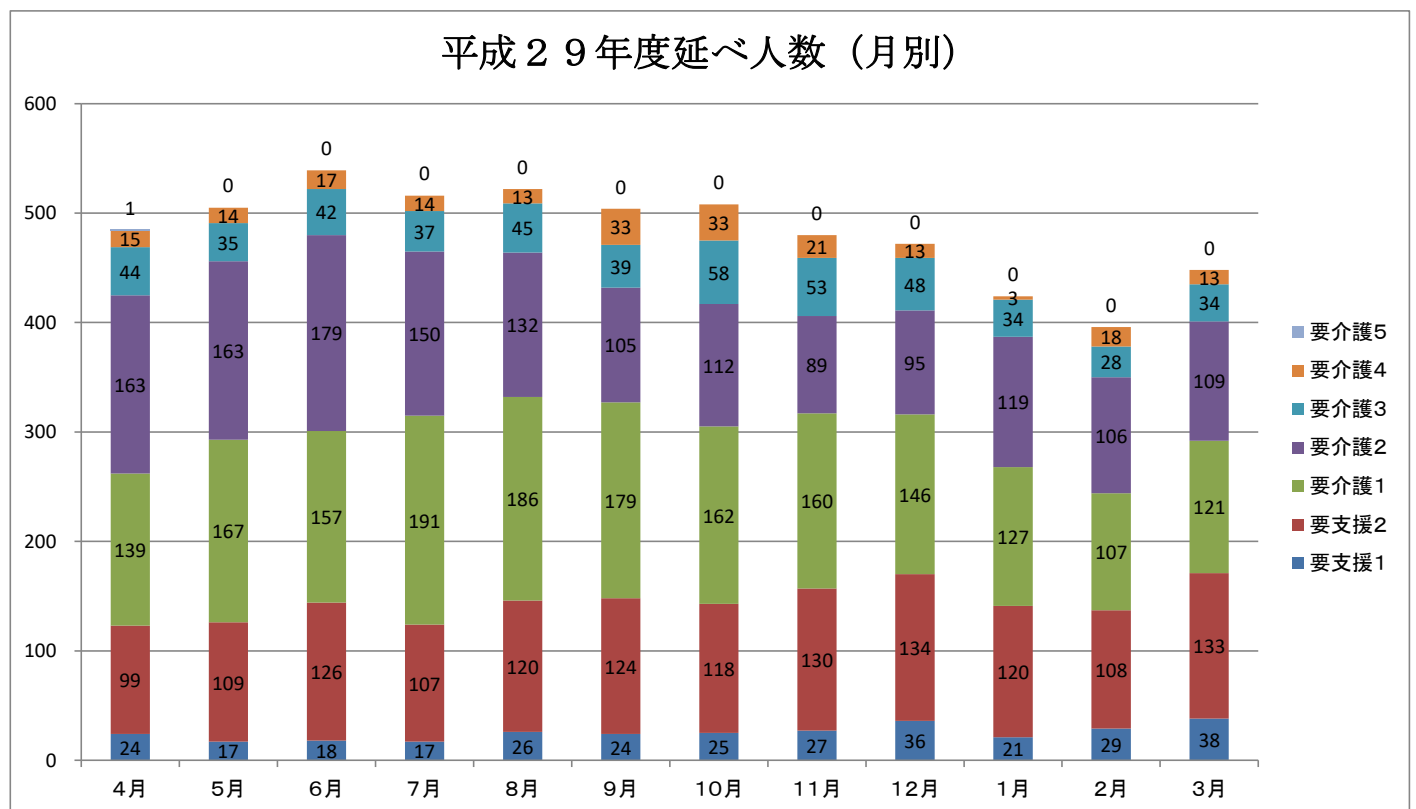
VI. 平成29年度空床ショート利用状況

1. 月別利用状況

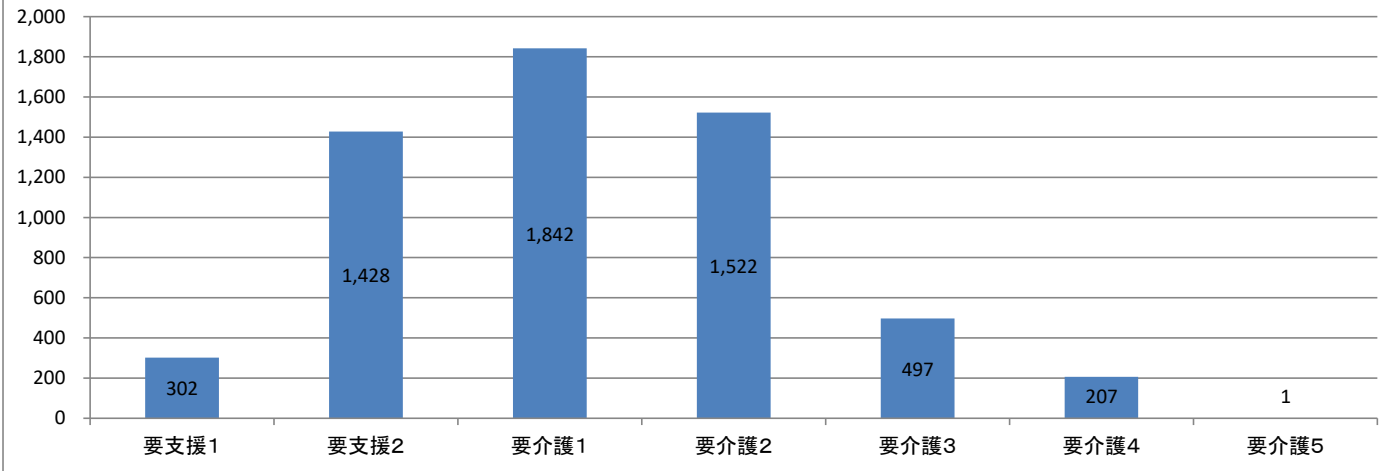
月	介護度	利用者数(人)	男性(人)	女性(人)	利用日数(日)
6月	要介護1	1	1	0	3
7月	要介護1	1	1	0	12
	要介護2	1	1	0	3
9月	要介護3	1	0	1	3
	要介護4	1	1	0	3
10月	要介護1	1	1	0	8
	要介護3	2	0	2	3
11月	要介護1	4	2	2	31
12月	要介護1	1	0	1	2
	要介護5	1	1	0	25
3月	要介護4	1	0	1	3
合計		15	8	7	96

I. 平成29年度 利用実績

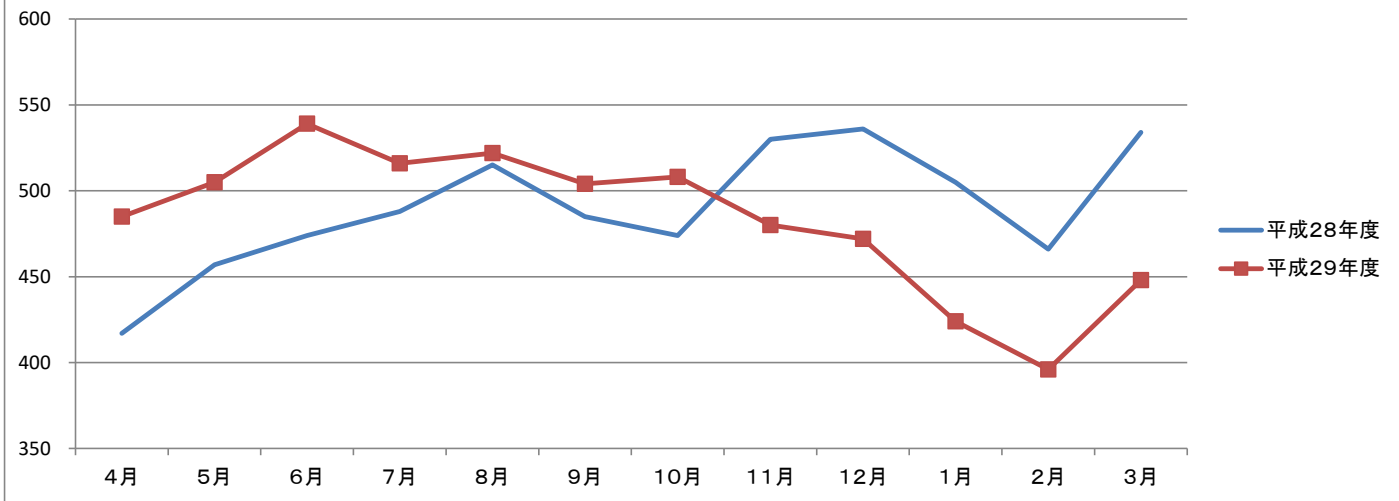
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	平均
要支援1	24	17	18	17	26	24	25	27	36	21	29	38	302	25.2
要支援2	99	109	126	107	120	124	118	130	134	120	108	133	1,428	119.0
要介護1	139	167	157	191	186	179	162	160	146	127	107	121	1,842	153.5
要介護2	163	163	179	150	132	105	112	89	95	119	106	109	1,522	126.8
要介護3	44	35	42	37	45	39	58	53	48	34	28	34	497	41.4
要介護4	15	14	17	14	13	33	33	21	13	3	18	13	207	17.3
要介護5	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0.1
延べ人数	485	505	539	516	522	504	508	480	472	424	396	448	5,799	483.3
実人数	47	44	49	48	51	50	48	46	49	45	48	45	570	47.5
稼働日数	30	31	30	30	31	30	31	30	31	29	26	31	360	30.0
平均	16.2	16.3	18.0	17.2	16.8	16.8	16.4	16.0	15.2	14.6	15.2	14.5	193.2	16.1



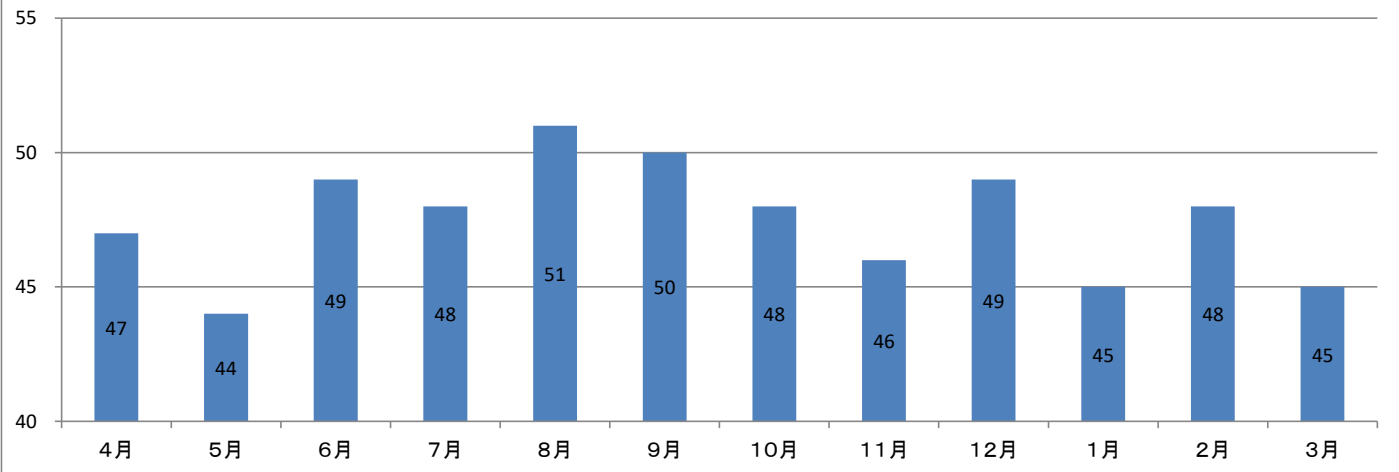
平成29年度延べ人数（介護度別）



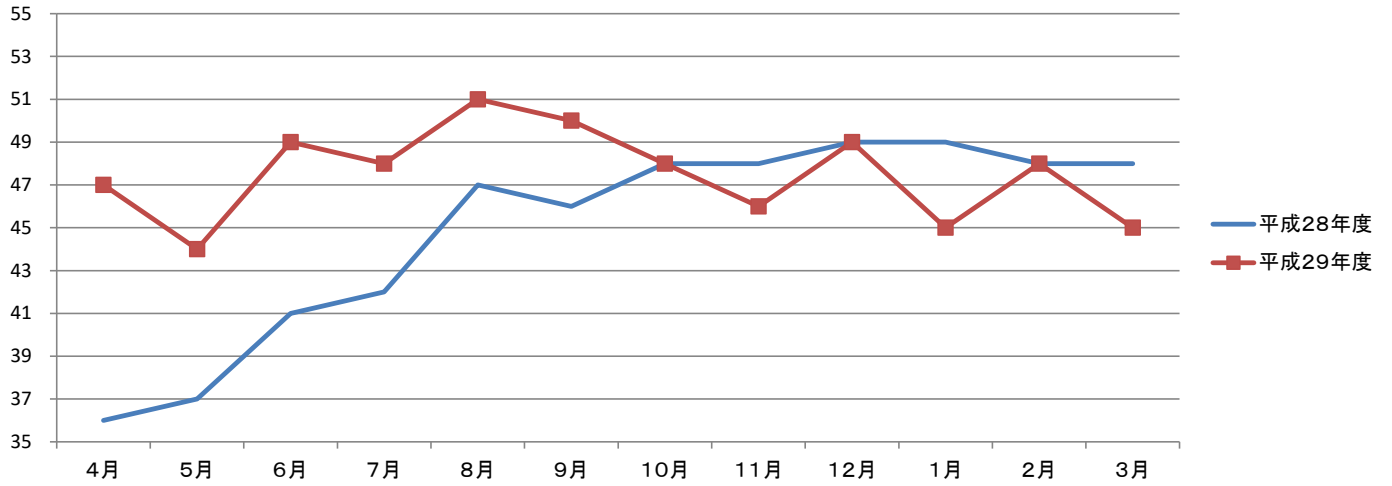
前年度対比延べ人数



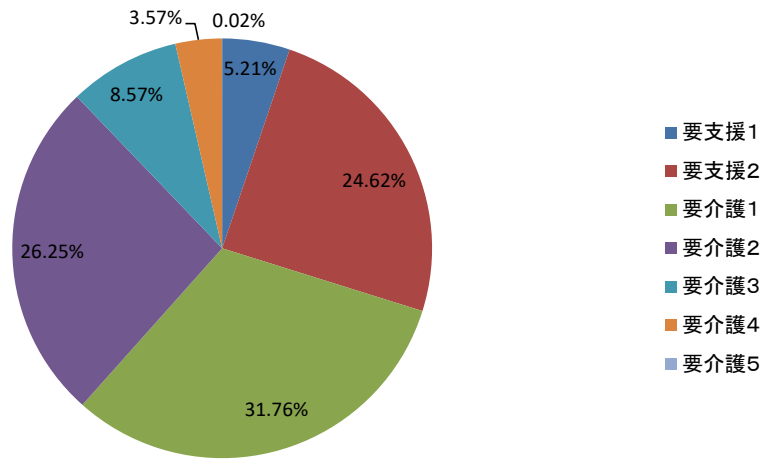
平成29年度実人数



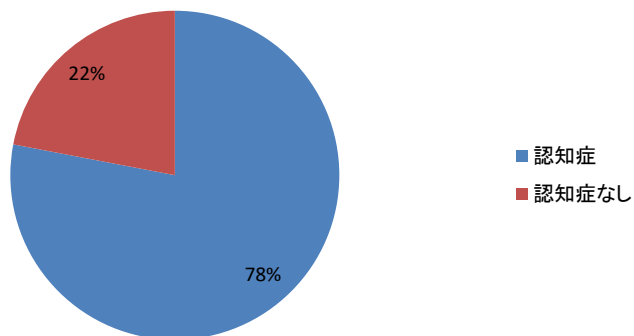
前年度対比実人数



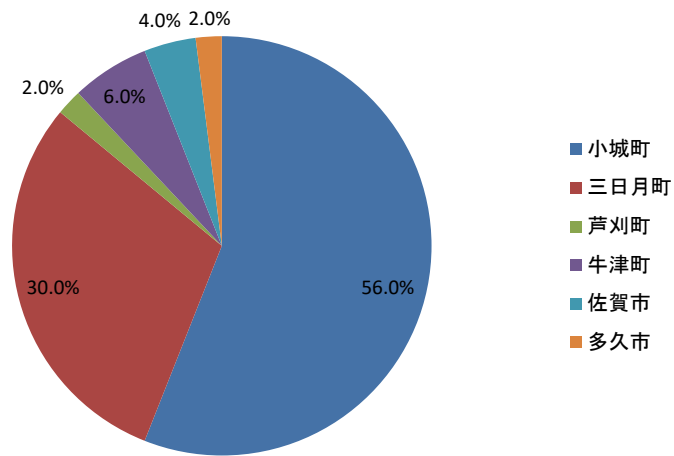
介護度別の割合



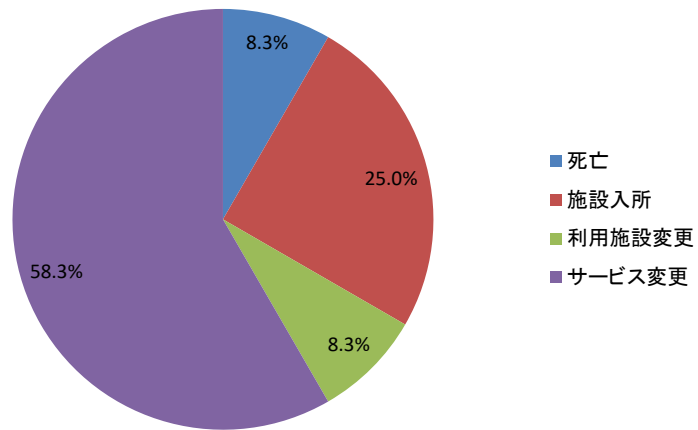
認知症の割合



地域別割合



登録抹消理由



登録抹消理由	人数
死亡	2
施設入所	6
利用施設変更	2
サービス変更	14
計	24

平成29年度配食実績

小城分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	平均
昼食	159	181	169	197	209	199	197	200	201	183	178	225	2,298	192
夕食	348	397	367	374	390	375	348	320	354	295	284	308	4,160	347
計	507	578	536	571	599	574	545	520	555	478	462	533	6,458	538
実人数	21	22	22	22	22	22	21	21	22	21	21	23	260	22

芦刈分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	平均
昼食	91	71	67	59	60	56	53	41	34	32	29	36	629	52
夕食	107	81	104	93	126	113	132	114	83	50	48	54	1,105	92
計	198	152	171	152	186	169	185	155	117	82	77	90	1,734	145
実人数	6	5	6	7	7	7	7	7	5	4	3	3	67	6

※清水園は、小城町・芦刈町を担当

Ⅱ. 平成29年度 デイサービス取組状況

1. 食事

食事を栄養補給だけではなく、楽しみのひとつとして捉え、交流を深める機会として雰囲気づくりに努めました。常食、粥、刻み、ミキサー食等、御利用一人一人の状態に合わせての食事を提供するなどし、必要に応じた介護を提供しました。また、行事に合わせた食事の提供を行いました。

2. 入浴

在宅での介護負担の軽減のため、自宅での入浴が困難な御利用者に対し、リフト浴によるサービスを提供しております。体調の変化に留意し、安全に入浴していただくように介助を行いました。

3. 排泄

御利用者一人一人の生活サイクルを把握し、よりよく誘導し、不快感を感じないように介護を行いました。

4. 余暇活動・レクリエーションの充実

社会的に孤立しがちな御利用者に対して、心身機能の低下の防止、向上を図っております。プログラム・趣味活動は、御利用者一人一人の個性、生活歴等を尊重し、持っている能力を発揮できるよう支援しております。四季折々の行事・活動を実施し、季節を話題にしながらカレンダー作り等の創作活動を行っております。

5. 口腔ケア

自分で出来る方の口腔ケアはスペースを設け、職員が1名必ず付いて介助するなど、自分で出来る方はなるべく自分でして頂く事で身体機能の低下を予防してます。自分で清潔を意識付ける自己管理能力の維持にもなっています。

口腔ケアが自分で出来ない方も歯科衛生士より訓練を受けた看護師が口腔ケアを行いました。内容としては口腔ケアによる口腔内の清潔の保持、義歯の洗浄、唾液腺のマッサージ、口腔体操等。

口腔ケアにより口腔内の清潔保持はもとより、機能維持の為の機能的口腔ケア。唾液腺マッサージを行う事によってムセ易かった方が殆どムセもなくなり、誤嚥の危険リスクを軽減する事ができました。また、自宅では食事も全介助であった方が自助具を使い自分で食べられる様になり、食事形態もミキサーからキザミそして普通食までレベルUPされたりと口腔ケアの効果も見られています。また、口腔刺激により脳への器質的刺激にもなっていると考えます。このように口腔ケアは器質的口腔ケア・機能的口腔ケアの両方を担って効果が顕著に出ています。

Ⅲ. 平成29年度における総評

- (1) 平成29年度の利用状況は、営業日が360日で事業所全体の延べ人数は5,799名で一日あたりの平均利用者数は16.1名でした。延べ人数は前年度に比べて減少傾向にあります。
- (2) 今後は、デイサービスの重度化に備えて、『介護の質の向上』や『資格取得により専門性の高い介護』が必要になると考え、勉強会や研修を通して習得することに取り組むたいと考えています。

清水園デイサービスセンター

平成29年度事業報告書

社会福祉法人清水福社会

平成29年度 事業報告書

～地域包括支援事業～

～介護予防支援事業～

小城市北部地域包括支援センター

平成29年度 小城市北部地域包括支援センター事業報告

小城市北部地域包括支援センター(以下、『センター』という)は、佐賀中部広域連合(小城市)から地域包括支援事業を受託し、また介護予防支援事業(要支援1・2のケアプラン作成、給付等)の指定を受けて10年を迎えました。その経過で、年々介護予防支援事業の件数増加だけでなく、困難ケース、虐待ケースも様々な問題で複雑化、長期化するケースが多くなってきています。

そのような背景のもと、平成29年度は職員8人体制となり、個々の対応に取り組むだけでなく、地区活動やネットワーク活動を継続的に実施したことにより、関係機関、介護支援専門員や地区民生委員等ともチームケアをする機会が多くなってきています。

○平成29年度重点目標

1. 地域包括ケア体制の推進
2. 認知症支援の強化
3. 継続的な介護予防の支援

1. 地域包括ケア体制の推進

(1)地域包括ケア体制の継続と展開

A 民生委員部会【継続事業】

- ・参加回数：18回（各町民生委員会開催時にセンター職員出席によるもの）
- ・内容：月の相談件数、内容の報告。高齢者支援における情報の伝達。

B 地域ケア会議の運営

B-1 地域ケア代表者会議【継続事業】

- ・開催回数：4回
- ・内容：支援困難事例等に基づいて原因を分析し、地域課題やニーズを

もとに地域支援計画の作成・実施方法等の検討を行った。

B-2 生き生きプラン検討会【継続事業】

- ・開催回数：10回
- ・内容：介護保険サービス利用者の、自立支援に視点をおいたケアマネジメント及びチームケアの実現に向けて検討を行った。

B-3 多職種事例検討会【継続事業】

- ・開催回数：年3回
- ・内容：個別事例に対し、多機関・多職種が多角的視点から検討を行うことで、その事例がかかえる個別課題を解決した。また、個別事例を通し、地域課題の発見も視野にいれて検討を行った。

B-4 支援困難事例検討会【継続事業】

- ・開催回数 なし

(2) ICT活用によるユビキタスネットワークサービスの推進

①小城北地域ケアシステムの推進【継続事業】

小城北地区の医療・介護事業所及び従事者へ、小城北地域ケアシステムより小城北地域ケア会議等の議事録、各種福祉サービスの情報やイベントなどの伝達をタイムリーに行った。

②高齢者安心見守りキーホルダー事業の推進【継続事業】

高齢者が安心して生活し、地域を出歩くことができるように、予め高齢者の緊急連絡先や医療情報を登録し、登録番号の入ったキーホルダー及びマグネットシートの交付を行った。

*平成25年11月よりサービス提供を開始し、平成30年4月1日現在で243名の登録実績がある。

2. 認知症支援の強化

平成29年度から、認知症地域支援推進員が新たに配置され、認知症の人とその家族への支援体制の構築を行った。

(1) 物忘れ相談会の開催【継続事業】

潜在的に悩む高齢者やその家族を早期に支援できる環境整備を行った。

- ・ 対応回数：3名
- ・ アドバイザー：認知症サポート医

(2) 認知症総合支援【新規事業】

小城市で行われる「小城市認知症初期集中支援チーム検討委員会」や「初期集中支援チーム員会議」に参加し、事業の体制整備を行った。また、認知症地域支援推進員にて、地域の実状を把握し、医療機関・介護事業所や地域の支援機関をつなぐ体制整備を行った。

3. 継続的な介護予防の支援【継続事業】

(1) 身体リセットおたっしや健康体操教室の開講

高齢者が自主的に取り組みを継続できるように、小地域自主サークル発足のキーパーソンとなる人材育成も試みた。

- ・ 開催回数：40回
- ・ 参加者：383人

(2) 介護予防支援事業

センターは、様々な場を通じて、介護保険制度の趣旨＝介護予防について説明に努めてきました。その結果もあり、介護予防の趣旨が徐々に浸透し、「サービス利用回数や内容が変わった。」などのクレームもなく支援できています。これは、個々のケアマネジャーが契約・重要事項説明⇒心身状況の分析⇒計画書の作成⇒評

価とケアマネジメントプロセスを利用者やその家族とともに行うことに徹底した成果が発揮されているからだと考えます。

①業務の効率化

平成25年4月よりクラウド型業務基幹システムを導入し、平成29年度は、介護予防サービス計画書数4150件の対応ができました。

(H26年度 3406件、H27年度 3521件 H28年度3652件)

専従ケアマネジャーの一人当たりの担当件数は約65件です。しかし、年々増える要支援認定者に、センターの専従ケアマネジャー4名だけでの対応は難しく、包括的支援事業職員(三職種)、居宅介護支援事業所への委託が合わせて、全体の25%程度となりました。

②ケアプランの質の向上

新人職員でもベテランの介護支援専門員と同様の介護予防支援を可能とし、「目標指向型ケアプラン」の作成ができるように、平成26年10月より「生き生きプラン検討会」を実施しています。